

主催：公益社団法人応用物理学会 微小光学研究会
共催：産業技術総合研究所 関西センター
協賛：日本光学会、オプトロニクス社（予定）



第 171 回微小光学研究会

「微小光学×宇宙 - Future Optical Sky -」

無人探査機「SLIM」による日本初の月面着陸成功や、新世代大型ロケット「H3」2号機の打上げ成功など、今年に入って日本の宇宙開発に明るい話題が相次ぎました。今回の研究会では、ロボット活用や太陽光発電・エネルギー伝送、光通信、ロケット推進、材料の耐性評価など、今後の宇宙開発を支える光技術に関して第一線で活躍されている研究者をお招きし、最新の研究成果を紹介いたします。

日時： 2024年6月7日（金） 13:00～16:50
会場： 産業技術総合研究所 関西センター
C-4棟2階 第8会議室(大ホール)
〒563-8577 大阪府池田市緑丘 1-8-31
<https://www.aist.go.jp/kansai/ja/access/index.html>
※オンライン同時開催予定
交通： 阪急宝塚線池田駅より徒歩 12分



プログラム案

13:00～13:10	開会の挨拶	
13:10～13:40	宇宙におけるロボットフォトリソ	村井 健介（産総研）
13:40～14:10	宇宙空間におけるレーザー給電の実現に向けて	栗林 亮介（JAXA）
14:10～14:40	宇宙太陽光発電実現に向けた長距離光無線給電	落合 夏葉（NTT）
14:40～15:00	《休憩》	
15:00～15:40	【特別講演】レーザーによるロケット推進	森 浩一（大阪公立大）
15:40～16:10	宇宙光通信の大容量化に向けた光コヒーレント送受信技術（仮）	尾野 仁深（三菱電機）
16:10～16:40	プリズム型再帰性反射材を装着した人工衛星「宇宙マグロ1号」とレーザー探索システム	奥田 侑也、前田 佳伸 [○] （近畿大） 辻 宏之、小野 文枝、中園 純一、宇佐美 敬之（NICT）
16:40～16:50	開会の挨拶	

参加費（消費税込、予稿集代を含む）：一般 5,000 円、応用物理学会員 4,000 円
学生・シニア 2,000 円、学生・シニアの応用物理学会員 1,000 円

参加申込：要事前申込、<https://www.comemoc.com/meeting/mo171.htm> よりお申込下さい
（開催前に予稿集と請求書を併せて郵送します。参加費を指定口座へお振込みください）

問合せ先：桑田 宗晴（Kuwata.Muneharu@cs.MitsubishiElectric.co.jp）（■を@に換えてください）

微小光学研究会 代表：伊賀 健一 運営委員長：中島 啓幾 実行委員長：横森 清
運営副委員長：波多腰 玄一 実行副委員長：宮本 智之

担当委員：山本 和久（大阪大）、藤 寛（大阪大）、杉原 興浩（宇都宮大）、浜本 貴一（九州大）、
村井 健介（産総研）、桑田 宗晴（三菱電機）

※プログラムは微小光学研究会のウェブサイト <https://www.comemoc.com/> でもご覧いただけます

※オンライン同時開催予定です。現地会場における聴講は先着順のため、会場の定員に達する場合はオンライン聴講となりますのでご了承下さい